

平成21年7月12日発行
第69号

発行 後援会
印南 宏
発行責任者 印南 宏



季節は暑い夏へ!

季節は、じめじめとした梅雨から、太陽がキラキラと輝く暑い夏へ、まっしぐらに向かっています。平和台の皆様、いかがお過ごしでしょうか。今年も、選挙の年です。三月は千葉県知事選挙が行われ、六月には千葉市長選挙、七月十二日の都議選、遅くとも九月十日の任期満了後に実施される衆議院の解散と総選挙へと続いていきます。

千葉県知事選挙

三月の千葉県知事選挙では、百万票以上を獲得した森田健作氏が当選しました。しかし、当選後、様々な疑惑が発覚しました。一つは、「完全無所属」の嘘です。自民党の党籍をもつばかりか、東京都衆議院選挙区第二支部の支部長を務め、その資金管理団体で得た企業献金を自らの政治資金管理団

体である「森田健作懇話会」へすべてを寄付していました。使途については知事選前の自民党候補の応援のためと釈明しているのみです。今月になり、「党紀委員会は、本日七月三日付で離党を了承しました。以上お知らせいたします。」というわずかな三行の文面がFacebook上で自民党本部から公表されましたが、本人の説明は一切されていません。

それ以外にも、知事選の元スタッフ二人に千葉県のアドバイザーとして県費で破格の報酬を与えていたことや、「俺は男だ」の青春ドラマで活躍した頃から剣道二段としていたのも自称で正式な免状は保有していないことも発覚しました。すべてが納得いかないことばかりです。

先日子ども会議では、子どもたちから「嘘を言わないでほしい」と知事本人に注文が出るなど、今なお、私たち県民に新知事の力量が理解されないままです。

千葉市長選挙

先月六月十四日、千葉市長の出直し選挙で、有権者は、三十一歳の未知数の若者に市政を託しました(市長選史上

最高の十七万票を獲得)。彼は政治不信を募らせていたサラリーマン時代の平成十八年、民主党から誘われた千葉市議の公募に挑戦するため、一念発起して都内から千葉市稲毛区に転居し、翌年の平成十九年に稲毛区選挙区で見事トップ当選を果たしました。わずか二年の市議経験を経て、政令市で最も新鮮な現役最年少の市長がここに誕生しました。

千葉市は我孫子市と同様に、財政的には苦しい自治体であり、彼はモノレール延伸中止やスポーツ公園整備見直しなどを公約に掲げました。対抗馬の元副市長は「あれもカット、これもカットでは今後の市政はどうなるのか。やるべき事業は続ける」と継続を訴えました。

千葉市民は延伸中止など市民の利便性低下につながり得る公約を掲げた新市長を支持、ダブルスコアに近い、圧倒的な強さで当選しました。

立場は人をつくる

多くの有権者が見守る中で、これからの市政運営では、市長と議会が議論を尽くし、対立や混乱を自ら克服していかなければなりません。年齢ゆ

えの「未熟」との批判はありますが、「立場は人をつくる」と言います。市長選挙で約束したマニフェストを着実に実行して、九十五万市民のトップとして政令市のかじ取り役を立派に果たしてほしいと願っています。

平成二十一年六月議会

六月定例会市議会は六月八日から二十四日まで、十七日間開催されました。提出された議案は七議案で、重度障害者医療費の支給に関する条例の改正、子育て支援施設の設置及び管理に関する条例の改正、我孫子市農用地等の保全活用に関する条例、一般会計補正予算などでした。

ぜひご覧下さい!!!

印南が代表を務める「あびこ21」ホームページ
<http://abiko21.exblog.jp/>
我孫子市 公式ホームページ
<http://city.abiko.chiba.jp>



特に、「農用地等の保全活用に関する条例」について、所管の環境生活常任委員会でも多くの委員から条例が本場に農用地保全・活用につながる条例となり得るのか、その効果、担保性に多くの疑問が出されました。また、市民のパブリックコメントの多くが条例反対の意見であることや国の農地法改正が可決されたことによる条例への影響、農用地解除への千葉県の認可、その下協議の進捗がないことなど、条例提案が時期尚早であり、常任委員会では継続論議とすべきとの意見が出され、多数継続となりました。しかし、その後の本会議では逆転、多数可決されました。

請願・陳情では…

肝炎対策のための基本法の制定を求める意見書・・・可決
根戸地区に「あびバス」の運行を求める請願・・・可決
市議会議場に国旗・市旗の掲揚を求める陳情・・・継続

印南の六月個人質問…

産業の活性化と郷土愛を育む施策について
非正規職員と自治体雇用の在り方
常磐線・成田線の利便化について



産業の活性化と郷土愛を育む施策について 印南の個人質問 抜粋

我孫子市商工業振興基本条例の策定について伺います。

まず最初に、条例案が当初の予定より遅れた理由について詳細をお聞かせ下さい。私は商工業振興の基本となる条例は必要なものと考えますが、我孫子市の現況を考えると、我孫子市の有力な資源である「農業の振興」を含まない振興基本条例は、当市になじまないと考えています。あびこ型農業も立派な産業であるし、効率の良い、生産活動をしやすい環境の確保や自然にやさしく魅力ある新たな都市型農業を振興する為にも、農業分野を含めた「産業振興基本条例」とすべきと考えますが、いかがでしょうか？お考えをお聞かせ下さい。

工業の分野で見ると、当市は東葛地域で工業団地が一か所もない自治体であり、商工会の加入率は今年三月末現在、組織率五十・七%です。地域事業者が一体となった取り組みを行うために、加入率が向上するような魅力ある商工会づくりが、まず必要と考えます。条例の中に、事業者の責務として、商店会への加入や応分の負担を求めることや、商店会事業に協力することも努力義務ではありますが、

明記することになると思います。現在の商工会をより魅力ある組織に変貌させる努力こそ、今必要なことだと考えます。

そのためには商工会と市の関係もより強化しなければなりません。現在、月一回のペースで実施している定例の話し合いの場の充実、人事交流の実施、消費者や若手経営者との積極的な意見交換など改善すべき事項が山積していると考えています。(詳細については議会だより、HP等をご参照下さい。)

宏の独り言

学区を考える！



我孫子市内には現在、小学校が十三校、中学校は六校あります。昨今、全国的に学区の自由化が進められています。我孫子市の学区は、我孫子市立小学校及び中学校通学区に関する規則により、就学すべき学校を指定しています。教育委員会は、原則的にはこの規則に基づき対応していますが、子供や家庭の都合などの理由により、保護者からの学区変更の願いが出され、適切と判断されたときは、通学途上の安全が確保されることなどを条件に柔軟に対応しています。昨年度、新小学生になる

際に、学区外就学願を許可された人数は百十二名、同、新中学生は八十三名となっています。

私は、学区は原則として守るべきと考えています。自由化は、一般に聞こえは大変良いのですが、選んだのではなく「選ばされた」、自由は名目で「不自由」になってはいないのか。全国的に自由化見直しの声も多く聞こえています。地域の中で子供を育て、安全を守るといことが義務教育では大切だと私は思っています。

ただ、東西に細長い我孫子市の現状は、西高東低に西側の我孫子や天王台地区は子どもの数が増加逆に東側の布佐、新木地区は減少しています。極端なアンバランス状態になっています。また、大規模校へ通学を希望するケースも増え、加えて人口の偏りで小中学校の児童、生徒の格差はますます拡大しています。

この六月議会で天王台地区の第三小学校に校舎増築のため二億八千二百万円を予算化したように、たびたび校舎増築の必要な学校もあれば、各学年一クラスの学校もあります。

学区の問題は大変デリケートな問題ではありますが、市の財政を考慮すると効率的な学校施設の使い方や格差問題の是正にむけた検討の場が必要になっていきます。

ポスト市民会館
の行方!

平成十九年三月末、旧市民会館閉館に伴い、我孫子市は新たな文化施設の建設に向けて、二つの委員会を立ち上げ、「文化施設検討委員会報告書」、「市民会館跡地利用検討委員会報告書」をまとめました。二つの報告書には我孫子市にふさわしい文化施設の規模、内容、建設候補地が提示されました。

その後、本件については、市は第四期実施計画(平成二十年(二十二年)に「新たな文化施設の検討」として位置づけ、施設整備における諸課題について庁内職員で構成された「我孫子市文化施設建設研究会」を立ち上げ、具体的な検討に入りました。この研究会の報告書が六月定例市議会初日に「我孫子市文化施設研究会報告書」として議員全員に提出されました。

一方、旧市民会館の跡地処分は昨年六月以降、紆余曲折を経て、今年四月二十日柏市の医療法人から買い取りの打診があり、現在、契約に向けた協議が進んでおり、仮契約が成立すれば九月議会で契約締結の議案が提出される予定となっております。

議員に提出された文化施設研究会報告書では、建設適地の検討(三候補地)、建設費の概算額、財源措置、他市文化施設との広域利用、

今後の進め方などがまとめられています。

課題として建設適地である三候補地とも農用地区域であり、農用地からの除外や農地転用手続きが必要になること、建設概算額が三十六億(四十四億円と高額になること、財源措置として国からの交付金「まちづくり交付金」、民間資金(PFI)の活用などが検討されています。厳しい財政状況の中、今、私が注目しているのは、お隣の柏市との広域連携により、公共施設の相互利用を促進し、共同建設できないものか模索することです。今後、十分な検討が必要になっていきます。

老朽化して、現在、対震調査を実施している柏市民文化会館の今後も含め、手賀沼エコマラソンを共同で行なっている柏市と、手賀沼周辺に相互利用できる(仮称)手賀沼ホルルの建設も一つの方法として真剣に検討すべきだと六月の教育福祉常任委員会で市長に提案をしました。



#####

宏と語る小さな小さな
ティーパーティーのお知らせ

「これで良いのか、我孫子市は」の視点で、恒例の6月議会定例報告会を下記のごとく開催します。市政の諸問題を取り上げながらの和やかなティーパーティーです。どうぞ、みなさま奮ってのご参加をお待ちしております。

日時:平成21年7月18日(土)

午後6時~7時半位

場所:布佐南近隣センター会議室(布佐小近くです。)

その他:事前予約等は不要・参加費無料です。
(どうぞお気軽にご参加ください!)

#####

平和台雑感

最近、私の身边でいろいろなかことが起こり、好きな映画をなかなか観ることができなかった。やつと六月末に観ることができた映画は「六十歳のラブレター」。インターネットで調べたら、一日一回限りで、細々と上映している映画館をみつけた。さっそく、上映している印西の「シネリーブル」に夫婦二人で出かけた。自分の両親を見ていて感じることものだが、

六十歳を超えて、ずっと相方とも元気で、仲良く暮らしていくことは大変に難しいことなのだ、実感している。

この映画は、広く一般から募った八万通を超えるラブレターを基に三組の夫婦の在り様を描いた作品である。ご主人が六十歳定年を迎えた機に熟年離婚する夫婦、口を開けば喧嘩ばかりの魚屋夫婦の愛、五年前に妻を亡くし、年頃の娘と二人暮らしをしている医師にふりかかる再婚話など、どこにもありそうな話だが、とてもリアルに人間模様が描かれている。この映画で一番泣いたのは、イツセー尾形と綾戸智恵が演ずる魚屋夫婦の愛。二人は口を開けば、憎まれ口ばかり、相手をいつもけなしながらも愛を確認する夫婦、その姿がとても可愛い。そして、ミュージシャンだった彼とその追っかけだった妻という設定。実は夫婦お互いに生きる方向性・価値感が同じであることがわかったとき、彼の口ずさむ歌とギターに何度も泣いた。(映画の詳細は割愛)現在、熟年離婚は年金の制度改定で多くなっているとは聞いている。映画の最後で、熟年離婚をしたカップルの夫に、新婚旅行に行った際に妻が夫に書いたラブレターが三十年ぶりに届くシーン。そのラブレターを読んで、彼はある決断をするのだが・・・。その手紙に書

かれている『愛』は漠然と芽生えるもので、「頑張つて生み出すものではない。』は、とても切なくて悲しい。涙が止まらなかつた。

政府統計によると今年五月の有効求人倍率は〇・四四倍で、調査開始以来最低を更新、正社員の求人は〇・二四倍で一年前の半分以下になっている。五月の完全失業率は五・二%と四ヶ月連続で過去最悪の五・五%に迫っている。雇用悪化が止まらない。雇用の深刻化は、失業状態の長期化につながっている。政府は今年度の補正予算で失業給付が切れた人などを対象に生活費を支給する失業対策を盛り込んでいくが、実施は夏以降とのこと。そんな悠長な段階ではない。一刻も早い対策が急務になっている。雇用・失業対策に近道はないが、環境など新しい分野での雇用を創出していくことが必要になっている。

こんな時代、思い出すのは、東京の下町・葛飾柴又を舞台にした映画「男はつらいよ」の車寅次郎、人呼んで、フーテンの寅。一作目はちやうど四十年前の昭和四十四年八月に公開、以来、平成七年までシリーズ全四十八作、私の大好きな映画である。この寅さんシリーズはいつも私の気持ちをリフレッシュさせてくれた。国民的な人気映画の主人公である寅さんは、現在の日本の姿と世界経済の低迷を

見て、何と言うのだろうか。雇用も先行きも日本は暗いよ、などと弱音を吐こうものなら、きつと、それを云つちやあ、おしまいよ」と寅次郎は怒ること間違いなし、と思うのだが。

私の良く口ずさむ歌に「人生賛歌」がある。確か、私が小学校五年、六年の頃の民法のテレビドラマ「七人の孫」の主題歌である。おじいさん役の森繁久弥がこの主題歌を独自の節回しで唄っていた。「七人の孫」も、その前のホームドラマである「ただいま十一人」も、森繁さん扮する祖父を中心に大家族一家の人間模様を描いている。この昔のドラマを思いだす度に、家族とはこうあるべきではないかと、こんなあたたかい大家族に憧れている自分がそこにいる。幸せな家庭で暮らしている自分が、ふと、この頃のドラマを思い出す時がある。

七月、山の季節が到来。私が学校を出て、新入社員の時、職場の先輩に誘われ、奥秩父山系の乾徳山(けんたくざん)にハイキングをした。徳沢の登山口から銀水晶から扇平へ、そこから観た富士山の美しさに感動。私はいつべんに山の虜になってしまった。あれから三十余年、登山靴やザック、シユラフ、ホエーブスやピークワンなど山道具は、現在は埃だらけで物置に眠っている。今、上映中の

映画「劔岳・点の記」を観た友人から、「山の美しさ、雄大さ、ウソのないそのままの自然に感動した」と絶賛の声が届いた。今年の夏こそ、もう一度、若い頃、青春時代?に戻つて、単独行で山歩きを試してみたい。そんな欲望に駆られている。嫌、その前に、体を鍛えなおすこと、そして書棚に眠っている「新田次郎」著、山関係の本をもう一度読み返してみたい。

人生賛歌

宏

作詞 森繁久弥 作曲 山本直純

どこかで、微笑むひともありよ
どこかで、泣いてる人もありよ
あの屋根の下、あの窓の部屋
いろんな人が生きている

どんなに時代が移ろうと
どんなに世界が変わろうと
人の心は変わらない

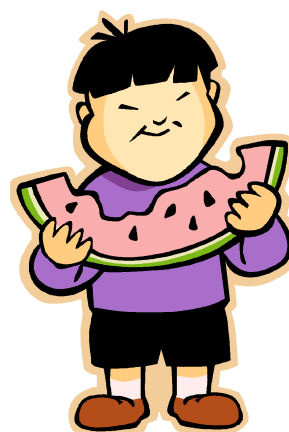
悲しみに 喜びに

今日もみんな生きている
だけど、ただ、これだけは云える
人生とはいいものだ、いいものだ

どこかで愛する人もありよ
どこかで別れる人もありよ
この空の下、この雲の影
いろんな人が生きている

どんなに時代が移ろうと
どんなに世界が変わろうと
人の心は変わらない

幸せをつかめずに
今日も誰か、涙する
だけど、ただ、これだけは云える
人生とはいいものだ、いいものだ



印南 宏後援会

〒270-1198 我孫子市日の出 1131
(日本電気労働組合我孫子支部内)
Tel 7184-2860

印南 宏 自宅

布佐平和台7-1-18
Tel 7189-1598
e-mail innami@mqd.biglobe.ne.jp
ﾌﾞﾗｯｸ http://hiroshi4649.at.webry.info/